

見どころ案内

バラ (バラ科)

モダンローズ、オールドローズ、世界の野生種、広島に関わるバラなど700種を植栽しています。詳しくはローズフェスティバル2018ガイドマップをご覧ください。

サボテンの花

オオガタホウケン、ウチワチワサボテンの仲間など、様々な品種で大きな花が見頃です。

大温室

リニューアル

日本一のバオバブやベンガルポダイジュなど650種5000本の植物を展示。

カスケード花壇の植物

見事な穂状花を咲かせているのはデルフィニウム。花をツバメが飛ぶ姿に見立てて和名は大飛燕草(オオヒエンソウ)。ピンクのかわいらしい花を多数咲かせているのはリクニス。オレンジや黄色の鮮烈な花はナスタチウム。花言葉は勝利。カープコラボTシャツのデザインにも採用されています。アリウム・ギガンチウムも見頃になりそうです。

オオバユク (マメ科)

北アメリカ原産で高さ10~15mになるもので、アメリカユクノキと言う方がとおりがいいようです。ユクノキは秩父地方の方言で、花の白さを喩えた雪の木が転訛したものだといわれています。

展示会のご案内

◇展示温室 (～5/24)

ハーブ展

◇展示資料館 (5/8～6/6)

趣味のボタニカルアート展

キショウブ (アヤメ科)

花茎の高さは60~100cmになります。名前の由来は花が黄色になることで、斑入り葉や八重咲きなどの園芸品種があります。

トチノキ (ムクロジ科)

葉の間から穂状の花が立ち上がっています。雄しべが伸び、華やかな様相を呈しています。

サクララン

(キョウチクトウ科)

つる性の低木で、花は多肉質で光沢があり、芳香があります。葉に斑が入ったものあり、観葉植物としても流通しています。

キシケイ (モクセイ科)

ヒマラヤ原産。ソケイはジャスミンの別名。同属ですが、香りはありません。

ベゴニア・センパフ

ローレンス

(シュウカイドウ科)

開花期が長く、小型の草姿に鮮やかな花色がメリハリのある模様を作り出し、花壇などに良く利用されています。大花壇ではカープの模様を描いています。

